

『吉備路の歴史遺産』魅力発信事業

し せ き び つ ち ゅ う こ く ぶ ん に じ あ と
史跡 備中国分尼寺跡

【大正11年国指定】

し せ き び つ ち ゅ う こ く ぶ ん じ あ と
史跡 備中国分寺跡

【昭和43年国指定】

場所：史跡備中国分尼寺跡・史跡備中国分寺跡（^{かんばやし}総社市上林ほか）

日時：令和8年8月1日（土）

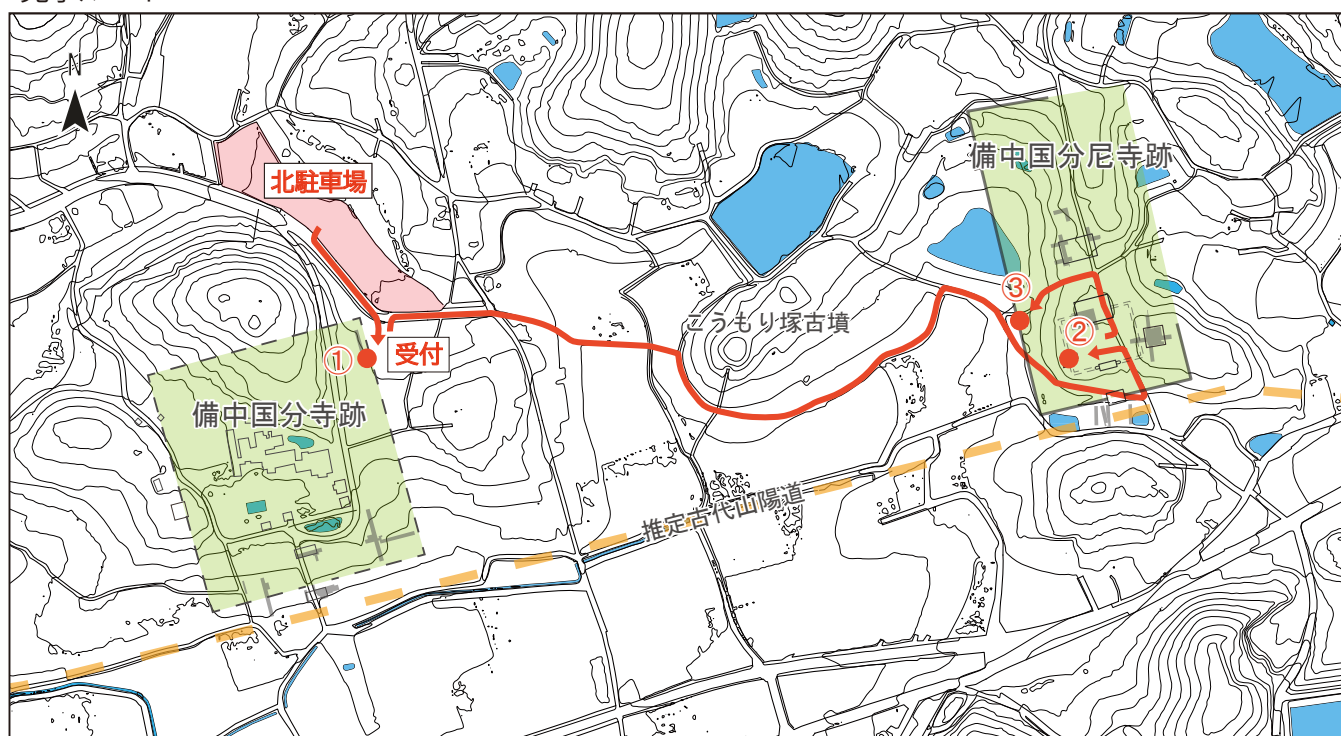
主催：岡山県古代吉備文化財センター

備中国分寺・国分尼寺は天平13（741）年に聖武天皇の命によって諸国に建てられた国分寺・国分尼寺のひとつです。伝染病や飢餓で乱れる世の中を、仏教の教えによって鎮めるために建立されました。その位置は古代山陽道に南面した交通の要所にあります。

令和5年度から始まった備中国分尼寺跡の発掘調査では、昨年度までに南門、中門、金堂、^{なんもん}^{ちゅうもん}^{こんどう}講堂、塔、築地の位置や規模・構造が明らかになりました。そして、最終年度となる今年度調査では、金堂前広場西端での活動の痕跡や備中国分寺方面へ続く道が見つかりました。

また、こうもり塚古墳をはさんで隣接する備中国分寺跡では、昭和46（1971）年度発掘調査で検出された築地を再調査しました。現在は芝生の広がる憩いの場になっていますが、調査の結果、基底部幅約1mの築地が再び現れました。

見学ルート



備中国分寺伽藍配置

※ 伽藍：寺院の建物の総称



- … S46年度調査区
- … R8年度調査区
- … 日照山国分寺建物位置

0 50m

① 築地

寺院の周りを囲む堀

＜寺域の推定範囲＞
東西約 160m × 南北約 178m

中門

【瓦葺礎石建物】

回廊内へ出入りするための門

＜門の規模＞5 間 × 2 間
＜基壇の推定規模＞
東西約 21m × 南北約 12 m

南門

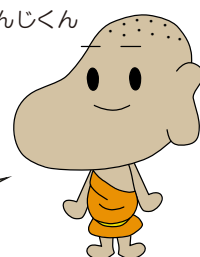
【瓦葺礎石建物】

寺院へ出入りするための門

＜門の規模＞5 間 × 2 間
＜基壇の推定規模＞
東西約 20 m × 南北約 10 m

昭和 46 年度の発掘調査で南門、中門、築地の規模や構造が判明しているよ。

ぶんじくん



備中国分寺と日照山国分寺

わたしたちが備中国分寺と呼んでいる現在の国分寺は、正式な名称を日照山国分寺にっしょうざんといいます。境内には国指定重要文化財の五重塔や、県指定文化財の庫裡（台所・住居）や経蔵（きやうぞう 経典をおさめる蔵）があります。日照山国分寺は江戸時代に建てられた寺院であり、実は奈良時代の備中国分寺とは伽藍配置（建物の配置）が異なります。昭和 46 年度の発掘調査では、奈良時代の南門、中門等が調査されましたが、金堂や講堂といった寺院の主要な建物位置は未だ確定していません。



奈良時代の備中国分寺の寺域 ▶

① 史跡備中国分寺跡 東辺築地

奈良時代に建立された備中国分寺の築地（寺域を囲う堀）は、周辺の土地が水田や芝生広場に姿を変える中、今なおその姿を留めています。

ここに注目！

- ① 基底部幅約1mの築地
- ② 瓦葺の築地だった？！周囲に堆積した瓦



昭和46年度調査の様子 西から



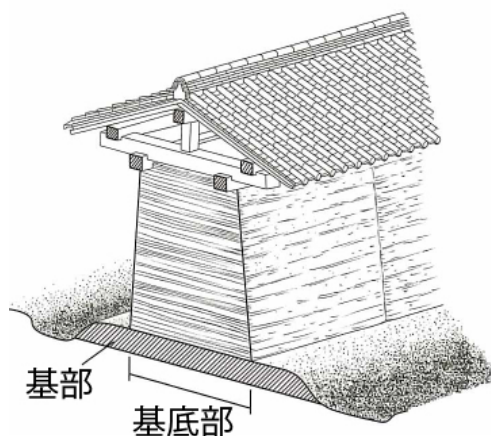
昭和46年度調査時 南から



築地の断面 北西から

今回の調査で、築地の基底部の規模が約1mであることが判明しました。

また、基底部付近には崩落したと考えられる瓦が堆積していたため、図のような瓦葺の築地であったと推測されます。



築地の構造

（文化庁 2013『発掘調査のてびきー各種遺跡調査編』より引用）

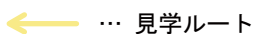
備中国分寺跡の礎石

昭和46年度に行われた備中国分寺跡の発掘調査では南門、中門の位置や規模が明らかになりました。しかし、奈良時代の礎石で元の位置をとどめているものは、ごくわずかでした。抜き取られた礎石の中には後の時代の人々によって、建物の礎石や、敷石、地蔵の台座等に再利用されているものもあります。現在も国分寺やその周辺に残る礎石をぜひ探してみてください。



大師堂に再利用された奈良時代の礎石

※ 伽藍：寺院の建物の総称



A horizontal number line starting at 0 and ending at 50m. The line is divided into 10 equal intervals by 11 tick marks. The first tick mark is labeled 0 and the last tick mark is labeled 50m.

儀式を行う場所

国分寺方面から出入りする
ための場所

【瓦葺礎石建物】

お経について学ぶための建物

＜建物の推定規模＞7間×4間

＜基壇の推定規模＞

東西25m×南北16m

【瓦葺礎石建物】

仏像をまつる建物

< 建物の規模 > 5 間 × 4 間

＜基壇の推定規模＞

東西 25m × 南北 17m

【瓦葺礎石建物】

平安時代中期（10世紀）の塔跡

< 建物の規模 > 3 間 × 3 間

＜基壇の推定規模＞

東西 14 m × 南北 14 m

Youtube で
動画公開中！！



【瓦葺掘立柱建物】

回廊内へ出入りするための門

＜門の推定規模＞ 3間 × 1間

＜基壇＋築地の推定規模＞

東西 18m × 南北 4.8m

【瓦葺礎石建物】

寺院へ出入りするための門

＜門の推定規模＞ 3間 × 2間

＜基壇の推定規模＞

東西 12m × 南北 9m

② 金堂前広場 西端



金堂前広場は儀式を行う重要な場です。

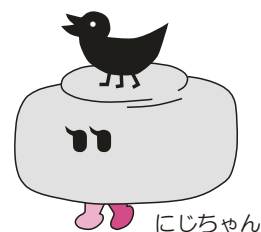
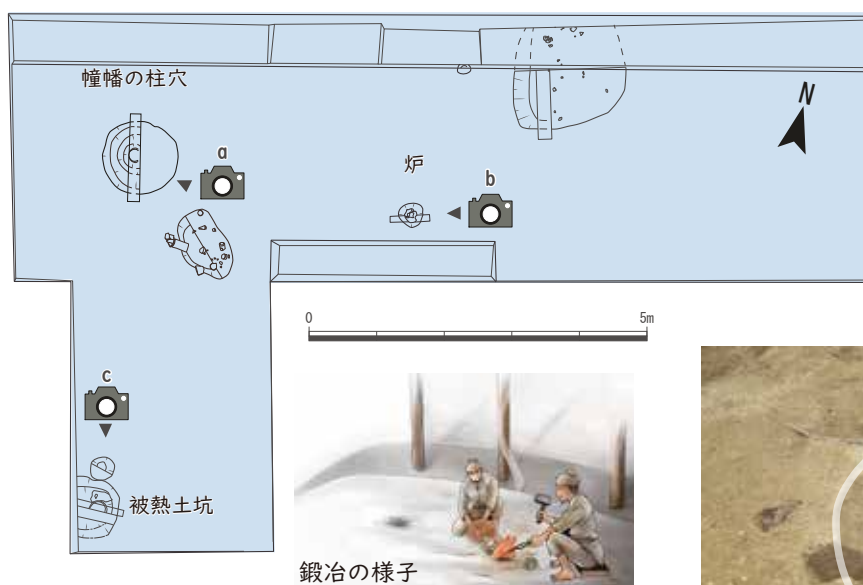
昨年度の塔の調査で、この広場の東端は地面を削って平坦にし、溝を掘って区画していたことがわかっています。今年度は反対側の西端の様相を調査しました。

ここに注目！

- ① 幟幡（儀式の場の装飾）の可能性のある柱穴
- ② 平安時代の作業場の跡



調査区全景 北西から



a. 幟幡の柱穴 南東から



c. 被熱土坑 北から

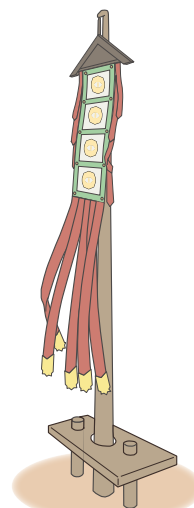
熱を受けた場所の色が赤色に変化している。



b. 炉の跡 東から

どうばん 幟幡

儀式などの際に柱に垂れ下げた幡のことで、主に布でできています。備中国分尼寺跡では金堂前広場の境界となる位置に幟幡を取り付ける柱が建てられたと推定されます。



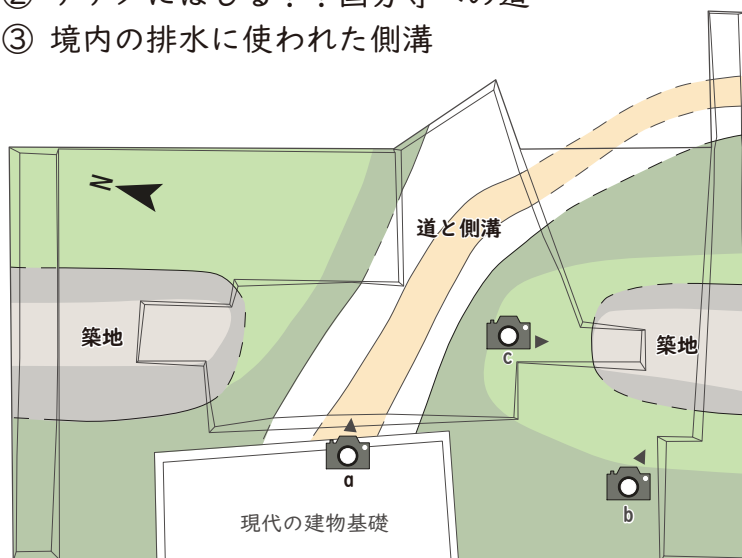
③ 西門推定地



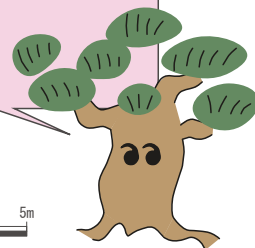
金堂から西に斜面を下ると築地が途切れた場所が見えてきます。今年度は、この場所の築地が初めから途切れている可能性を探るために調査を行いました。結果、門の痕跡はないものの、道と側溝が見つかりました。

ここに注目！

- ① 現在まで残る奈良時代の築地
- ② ナナメにはしる！？国分寺への道
- ③ 境内の排水に使われた側溝

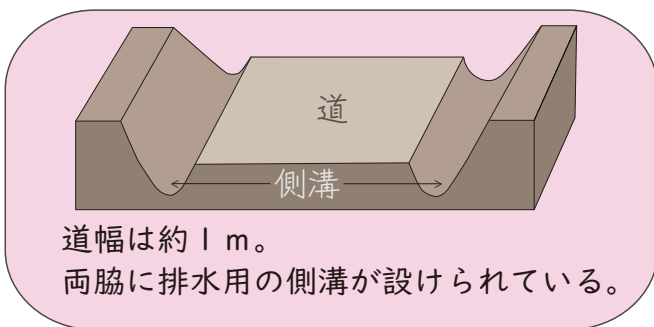


地山(■の部分)を削って溝を造り、その間に道(□の部分)を造っている。さらに平坦に整えた地山の上に土を盛って(□の部分)整地をしているよ。寺を造るために大規模な造成工事をしていることが分かるね！



おまっつあん

0 5m



はんちく
版築

せいちど
整地土

きぶ
基部

地山を削り出して
成形している。



岡山県古代吉備文化財センター

Okayama Prefectural Ancient Kibi Cultural Properties Center
〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3 TEL 086-293-3211



古代吉備文化財センター

